

子どもたちの 明るい未来を地域で守ろう

田川市青少年問題協議会（会長：小嶋秀幹こじまひでまさ福岡県立大学教授）は、青少年にかかわる少年補導員や民生委員など15人の委員で構成されています。本年度は3回にわたって、本市における青少年問題について協議しました。今回は主な協議内容を紹介します。

薬物乱用防止

田川地区では、大麻やシンナー、覚せい剤などの薬物の使用が、幅広い年齢層に広まっている傾向にあることが委員から報告されました。また、違法薬物によく似た成分が含まれる「危険ドラッグ」を使った事件・事故が全国で相次いでいることが話題として上がりました。

この報告を受けて、市内の小中学校と高等学校を調査したところ、すべての学校で、たばこを含む薬物の害や健康への影響、その乱用防止に関する授業などが行われていました。その際、飯塚少年サポートセンターの職員や薬剤師などの専門家を招いて行った例もあり、学校からは「生徒が切実な問題として考えることができた」との感想も聞かれ、これらが効果的な取り組みであることが分かりました。委員からは、小学校低学年から

の取り組みのほか、警察や少年サポートセンターなどの専門家を活用した取り組みを積極的に行ってほしいとの意見が出されました。

未成年者の喫煙

現在、未成年者の喫煙がさまざまな場面で問題となつています。特に、公共の場で堂々と喫煙する未成年者の姿が目撃されており、警察官だけでなく、少年補導員や教職員などによる巡回補導が行われています。

また、委員からは、たばこの自動販売機で使用する「タスポ」と呼ばれるカードを一部の保護者が子どもに与えたり、たばこそのものを与えたりしている実態が報告され、大人のモラルの低下が浮き彫りとなりました。

電子機器が及ぼす影響

昨今、スマートフォンなどの電子機器が急速に普及しています。

これらの電子機器により、子どもたちの間で友達同士のトラブルの増加や長時間の使用による生活習慣の乱れが、福岡県の実態調査で明らかとなりました。

また、保護者が電子機器を扱いつつながら授乳や会話などを行うことが、子どものコミュニケーション能力や自尊心の低下を招いているとの指摘が委員からあり、家庭では電子機器を正しく使うためのルールづくりが必要という意見が出されました。

青少年問題協議会では、今後も青少年に関する問題について協議し、必要に応じて情報発信していきます。



届け、私たちの思い

「少年の主張」田川地区大会

2月8日、赤村住民センターで「第21回「少年の主張」田川地区大会」が開催され、田川市郡の市町村からそれぞれ選出された9人が、心に思い感じたことなどを発表しました。

審査の結果、本市代表の小栗琴音さん（中央中学校2年）と中島璃音さん（金川中学校2年）が優秀賞を受賞し、8月29日（土）に岡垣町で開催される県大会に推薦されました。

小栗さんは福島県いわき市立勿来第一中学校から送られてきた作品を見て感じた、伝えることの素晴らしさや難しさを「心を見がいて」と題して発表。「中央中放送部が大事にしている『大切なことを、大切に伝える』という言葉に胸に心を見がき、心を込めて伝える活動を続けたい」と話しました。

一方、中島さんは「平和という道を歩こう」と題して、所属する放送部での作品制作の中で、平和について考え、感じたことに触れ「日本や世界に関心を持って毎日を過ごし、将来歩むべき方向を決める機会が訪れたとき、迷わず平和という道を決断できる人になりたい」と発表しました。



▲発表が終わり、安どの表情を浮かべる小栗さん（右）と中島さん